

# 令和7年度第3回多摩市地域包括支援センター運営協議会

## 要点録

### ○協議会概要

開催日時	令和8年2月3日（火）19時00分～20時30分
開催場所	多摩市役所 301会議室
出席委員	10名（うち途中からの出席1名）
欠席委員	0名
事務局 (7名)	健康福祉部長 地域ケア推進係長 地域ケア推進係（基幹型地域包括支援センター） 3名 高齢支援課長 介護予防推進係長
地域包括 支援センター (計5名)	西部地域包括支援センター 多摩センター地域包括支援センター 北部地域包括支援センター 東部地域包括支援センター 中部地域包括支援センター
公開区分	公開
傍聴者	0名

### ○議事内容

#### 1 はじめに (1) 挨拶

---

##### 【事務局】

10名中9名出席（欠席者のうち1名は2（1）の途中より出席）

地域ケア推進係長：資料説明 会長と民生委員の交代

・健康福祉部長 挨拶

## 2 協議事項 (1) 令和7年度地域包括支援センター運営評価報告

---

【事務局】資料1－①②③を地域ケア推進係長より説明。

第2層生活整備活動事業を中心に評価について各地域包括支援センターより報告。

### 【西部地域包括支援センター】

- ・2年前から第2層生活支援事業を受託し、住民主体の団体の開拓等の活動をより活発に行うようになった。
- ・地域包括支援センターとのかかわりを求めている住民団体もあり、ゼロから説明し、見学をお願いするなど足で稼ぐ活動を中心に行っている。
- ・第1層生活支援コーディネーターにより情報集約のシステムが整備され、地域資源の情報が整理された。
- ・高齢者の個別相談に対し、地域資源を紹介して孤立防止に活用している。
- ・介護サービスにつなげるだけでなく、地域に出られるよう重視していきたい。

### 【東部地域包括支援センター】

- ・通いの場に訪問し関係づくりを進めながら少しずつ資源開拓している。
- ・団体によっては新たな参加者の受け入れが難しい場合もあるが、繋がりは拡大しつつある。

### 【多摩センター地域包括支援センター】

- ・サロン・近トレなど地域資源に必要な応じて高齢者と同行訪問して紹介することもある。
- ・デイサービスだけでは自立支援が足りないケースも多く、近所で行ける場の活用を推進している。

### 【中部地域包括支援センター】

- ・エリア内に自治会理事会が40以上あり、第1層生活支援コーディネーターと共に2年かけて丁寧ニーズをヒアリングしてきた。複数の「通いの場」（近所 de 元気アップトレーニング等）が創出できている。地域からのご要望で出張講座も増加している。
- ・社会資源マップシートにより他エリアの通いの場も紹介しやすくなった。
- ・施設の地域開放が進み、認知症カフェ大規模イベントに施設を利用できた。

### 【北部地域包括支援センター】

- ・2年間で地域サロン・自主グループとの関係構築を進めてきた。
- ・高齢化や世代交代など団体側の課題に対し、第2層生活支援コーディネーターとして継続支援を行っている。
- ・介護予防ケアマネジメントで状態が改善した高齢者が地域の通いの場へ戻れるよう支援も行っている。
- ・MCIレベルの方の孤立防止に、近トレ・体操教室などへ同行訪問して定着を支援している。

### 【事務局】

- ・第2層の委託が包括に移り、包括の地域活動が一気に増えて大変だったことに感謝。
- ・データ共有シートを整備し、通いの場や多様な資源の共有が可能になった。

- ・市が把握している約 300 の通いの場について 2 層中心で収集を進めており、関係構築も進んでいる。
- ・今年度だけで近所 de 元気アップトレーニングが 8 団体立ち上がり、累計 50 超えの成果が出ている。
- ・地域からも包括への評価が高くなっている。

重点報告項目を中心に基幹型地域包括支援センターより説明。

**【基幹型地域包括支援センター】**

- ・自立支援を目的とした地域ケア会議では、個別ケースの自立に向けて専門職を含め関係者を招集し、対策を検討している。事例を紹介。
- ・地域ケア個別会議では、個別支援の検討を通じて見えた地域課題を上位の会議体へつなぎ、地域づくりに反映するプロセスに組み込んでおり、地域づくりに反映させている。

**【委員】**

- ・市内に 300 程度ある通いの場の把握状況や、地域資源を整理する中で見えてきた多摩地域の特徴や課題があるのか。

**【事務局】**

- ・通いの場は全体の約 60% を把握している段階。
- ・体操系の活動は多く把握できているが、それ以外の活動はまだ把握できていない部分がある。
- ・エリアによって「通いの場が存在しない地域」もマップ上で見えてきており、今後の検討課題となっている。
- ・多摩市の特徴として、通いの場が比較的多い。ニュータウンエリアは集会所が多く、活動が実施しやすいという利点がある。場所を 2 層が把握しているため、場所をどう生かすか考えていく。

**【事務局】**

- ・既存地区は交通量が多く移動が難しいが、ニュータウンにはペDESTリアンデッキがあり、徒歩移動しやすいことが通いの場の参加しやすさにつながっている。
- ・一方で、自力通所が前提の元気塾へ移動する手段の確保は大きな課題。

**【委員】**

- ・通いの場につなげたい対象者の中には「今はいない」「放っておいてほしい」と言う住民もいると思われるが、こうした人へはどうアプローチしているか。

**【北部地域包括支援センター】**

- ・通いの場に消極的な人は一定数存在する。無理強いせず、必要なタイミングを見計らって再アプローチする。本人が関わっている人・つながりがある人を通じて働きかけるなど、多様なアプローチを試みている。
- ・性格面・精神的背景が絡む場合は難易度が高く、支援のハードルが上がる。

**【会長】**

- ・無理強いせず、本人が「通ってよかった」と感じられる後味のよい支援が重要。楽しさ・嬉しさ・「この地域に住んでよかった」という感情につながる支援が求められる。

**【事務局】 参考資料について地域ケア推進係長より説明**

居宅介護支援事業所と民生委員に地域包括支援センターについてアンケートを行った。

**居宅介護支援事業所**

- ・主な関わりはサービス調整が最多。
- ・対応への満足度は80%以上と高評価で、令和4年度より満足度が大幅に上昇。
- ・包括による対応のバラつきについて指摘いただいております、スキル標準化が必要。

**民生委員**

- ・個別支援相談・安否確認が多い関わり。安否確認は増加傾向。
- ・満足度は80%前後と高いが、包括による差が見られる。
- ・地域資源情報の提供不足と個別ケースの進捗報告の要望が多い点が課題。

**【委員】**

- ・未回答16%は民生委員側でも改善したい。
- ・民生委員活動において包括の支えを強く実感している。
- ・満足度の差は包括の差というより、民生委員側の活動の差も影響しているのではないかと。
- ・アンケート結果は民生委員の定例会で共有し活用したい。

**【会長】**

- ・民生委員・居宅双方のアンケートで総じて満足度が高いのは日ごろから連携が取れているということではないかと。
- ・一方で包括職員の対応のバラつきについて意見が出ているのは、経験年数による影響があるのではないかと。

**【多摩センター包括支援センター】**

- ・多摩センター包括はここ3年で全職員が入れ替わったため、経験が浅い職員が多い。
- ・民生委員と顔の見える関係が十分には築けていないかもしれない。
- ・地域に出る経験が浅い職員が多いため、住民に不便をかけている可能性も感じている。

**【事務局】**

- ・多摩センター包括は欠員が続いている状況であり、その結果に影響している可能性がある。
- ・多摩センター包括は立地上、地域との距離感が生じやすいことも考えられる。

**【委員】**

- ・多摩センター包括とは日常的なやり取りが多く、フットワークの軽い対応に感謝している。
- ・包括職員に経験差がある点は理解しつつ、居宅側も共に成長したい。
- ・包括職員の顔・名前・資格が外部に見えにくく、人の入れ替わりにも対応できる顔の見える関係づくりが必要。

**【会長】**

- ・多摩市だけでなく、全国的に包括の人手不足は共通課題。
- ・地域未経験の職員が着任することも多く、円滑な連携には時間がかかることもある。
- ・ただしアンケートは概ね高評価であり、今後も顔の見える関係づくりを継続してほしい。

### 3 報告事項 (1) 令和8年度地域包括支援センター運営方針(案)について

---

【事務局】資料2を地域ケア推進係長より説明

【事務局】

- ・以前は三職種のそれぞれの役割を中心に活動していたように思うが、現在は職種に関係なく行っている印象があるがいかがか。

【東部地域包括支援センター】

- ・相談件数が多く、職種ごとの“主担当制”は現実的に難しくなっている。
- ・しかし職種横断でチーム対応することで、互いの専門性を学び合うプラス効果もある。
- ・今は「職種にこだわらず協力して対応」が実態。

【会長】

- ・運営方針をふまえて、地域特性に応じてどのような課題に力を入れたいと考えているか。

【西部地域包括支援センター】

- ・エリアを地図上で再分析し、高齢者の移動の困難さが最大の課題と認識。
- ・駅やバス停までの距離・高低差があり、移動支援が課題と考えている。

【会長】

- ・バス本数の減少・路線廃止など公共交通の縮小も背景にあり、移動支援は大きな課題。

【委員】

- ・一人暮らし高齢者への訪問時にインターホンの状態や鍵の保管場所(キーボックス等)といったものの備えを確認しているか。

【中部地域包括支援センター】

- ・初回訪問時に個人情報同意書の取得・緊急連絡先の確認を徹底している。
- ・中部包括に多い団地は、キーボックスを設置しやすい状況がおおく、キーボックスの設置案内を行っている。
- ・ただし本人が「まだ大丈夫」と先送りするケースも多い。
- ・ACP(人生会議)の普及とも連動し、今後も“備え”の啓発を続けたい。

【会長】

- ・一人暮らし高齢者の増加により安否確認が増えており、いざというときに備えることが必要。
- ・キーボックスなどの取り組みは信頼関係が前提。

### 4 その他

---

【事務局】

- ・令和8年度の協議会については、日中も含めて開催日時を検討する。

次回日程：令和8年5月下旬予定。